令和２年度予算主要事業

令和2年1月31日

荒　川　区

令和2年度予算主要事業

NO	事　業　名	予算額
1	児童相談所の設置	13億3，163万円
	令和2年4月に荒川区子ども家庭総合センターを開設し、7月から児童相談所業務を開始する。経験豊富な職員の配置及び国基準を上回る専門職員の配置により、きめ細やかな相談体制を構築する。また、地域の関係機関との連携をより一層強化し、予防的支援の充実を図る。	
2	待機児童解消に向けた保育定員のさらなる拡大	10億7，316万円
	区有地、賃貸物件等を活用した保育所整備により、保育定員の拡大を図り、待機児童の解消に向けた取組みを継続する。	
3	中学1年生の基礎学力向上事業の充実	926万円
	区立中学1年生を対象とし、夏季休業中に各生徒の学習到達度に合わせた補習の機会を全区立中学校において設け、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	
4	障がい者の地域生活を支えます！基幹相談支援センターの開設	2，578万円
	障がい者のお困りごとに、公民協働で荒川区の強みである地域コミュニティの力を活かしながら応える、相談支援の拠点を開設する。	
5	水害対策の充実・強化	5億4，209万円
	近年大規模化している水害に全庁体制で対応していくため、情報伝達体制や電力確保手段の多重化、水防活動体制や避難場所運営体制の強化等により、水害への対応体制を充実・強化する。	
6	交通事故ゼロを目指した取組＜新規＞	624万円
	自転車・子ども・高齢者の事故を削減するための対策として、各種支援制度を導入するとともに、区内事業者と連携した啓発活動等を推進していく。	
7	わくわくがいっぱい！荒川遊園リニューアル	11億5，124万円
	都内唯一の公営遊園地であり、親子連れの方々から人気の荒川遊園を、子どもにとっても大人にとってもさらに利用しやすく魅力的な施設へとリニューアルする。	
8	宮前公園の整備	13億351万円
	新尾久図書館と一体化した遊びの空間としての子ども広場エリアや、ガーデニングの専門家の意見を取り入れたガーデンエリアを整備し、子どもから大人まで楽しみながら利用できる公園に整備する。また、芝生広場は多目的広場として開放し、災害時は防災拠点として利用する。	
9	新尾久図書館の整備	8億3，353万円
	令和2年12月に開館予定の新たな尾久図書館の整備を進め、地域の区民に親しまれ、あらゆる世代が快適に読書ができる環境を整えることにより、「読書を愛するまち・あらかわ」をさらに展開していく。	
10	ふれあい館の整備	10億6，226万円
	乳幼児から高齢者まで幅広い世代が活動、交流できる地域コミュニティ施設「ふれあい館」を、新たに2館（東尾久本町通りふれあい館、ひぐらしふれあい館）整備する。（工事期間：令和2～3年度、令和4年度開設予定）。	

NO	事　業　名	予 算 額
11	オリンピック・パラリンピック関連事業	7，203万円
	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて気運を高める事業や、大会関連の区民が参加できる事業を展開する。	
12	日暮里地域活性化施設の開設	8億7，398万円
	日暮里繊維街にファッション関連の創業支援施設、工房・創作コーナー、創業支援カフェ及び区民事務所を備えた施設を開設し、「ファッションの街　日暮里」をアピールするとともに、コミュニティの拠点として地域の活性化に寄与する。	
13	クラウドファンディングで新ビジネスを支援＜新規＞	150万円
	新製品や新サービス開発のため、クラウドファンディングを活用して開発資金の調達に成功した中小企業を支援する。	
14	環境負荷の少ない電力の調達を拡大	－
	特定規模電気事業者から電力を調達する対象施設を拡大し、さらなるコスト削減とクリーンな電力使用を推進する。	

事業名　児童相談所の設置

予算額 １３億３，１６３万円

【ＰＲポイント】

○ 令和２年７月から児童相談所業務を開始

○ 経験豊富な職員の配置及び国基準を上回る専門職員の配置によりきめ細やかな相談体制を構築

○ 里親の登録数拡大に向けた取組を推進

○ 児童養護施設を誘致

みんなで支えるあらかわの子どもたち

- 令和２年４月に子ども家庭総合センターを開設し、７月から児童相談所業務を開始します。同センターは、子育てで心配なことなどを、子どもや親と一緒に解決していく専門の相談機関です。これまで子ども家庭支援センターで担ってきた機能も一体的に運営し、あらゆる相談に対応していきます。
- 基礎自治体の強みを生かし、地域の関係機関との顔の見える形での連携をより一層強化することにより、支援が必要な子どもや家庭を早期にキャッチし、迅速に対応するなど、予防的支援の充実を図ります。
- 家庭的で温かみのある一時保護所を設置するとともに、子どもの権利擁護に配慮した一時保護を行います。
- 親と一緒に暮らすことができない子どもを、家庭的な環境で育てていくため、短期里親の開拓など、里親の登録数拡大に向けた取組を積極的に進めていきます。
- 虐待などの理由により専門的なケアが必要な子どもの養育や、里親への支援などを行うため、児童養護施設の誘致を進めていきます。

【問合せ先】　子育て支援部 児童相談所準備担当課長　西浦　啓子　内線３８４０

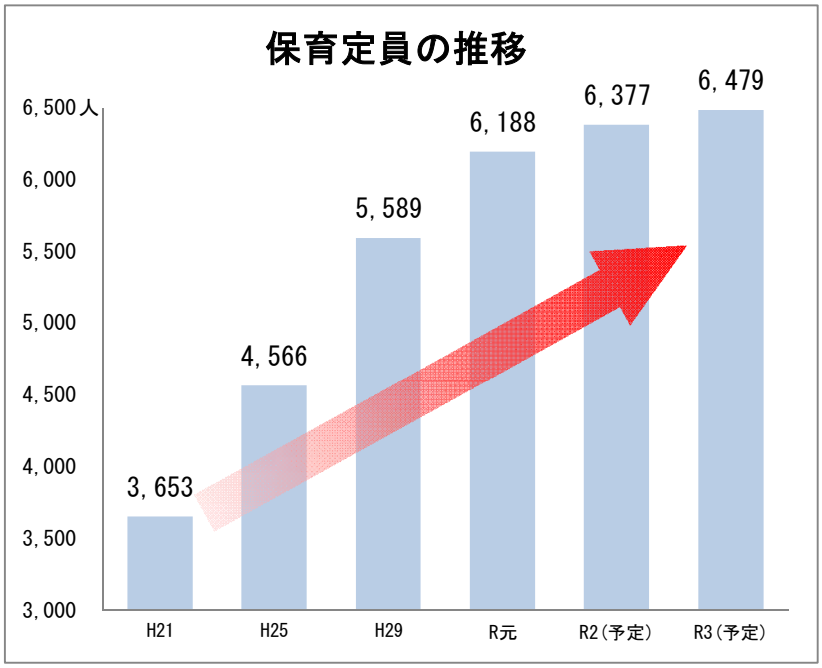
事業名　待機児童解消に向けた保育定員のさらなる拡大

予算額 １０億７，３１６万円

【ＰＲポイント】

○ 新たな保育園を令和２年度までに４園、３年度に１園開設するなど、２９０人超の定員拡大

○ 区有地、賃貸物件の活用など、多様な手法で新たな保育園を整備



保育利用率
57.4%
23区中1位
23区平均48.4%
(東京都の集計資料による)

子育て世代が増えている中で、保育定員の拡大を積極的に図り、保育利用率はこの５年間で約１０ポイント上昇しています。

区では保育需要に対応するため、国家戦略特区の規制緩和を活用した都市公園内への保育所整備や、国有地、民有地などの積極的な活用や民間企業の所有するビルの一部を区が借り上げ、転貸して保育所を整備するなど、この１０年間で2,５００人を超える保育定員の拡大を行ってきました。

今後も保育需要の増加が見込まれる地域に対し、区有地、賃貸物件等を活用した保育所整備により、**令和３年４月までに２９０人超の保育定員の拡大**を予定しています。

こうした取り組みを進めながら、待機児童の解消につなげます。

【問合せ先】　子育て支援部　保育調整担当課長　野村　文和　内線３８２０

事業名　中学１年生の基礎学力向上事業の充実

予算額　　９２６万円

【ＰＲポイント】

○ 夏季休業中に各生徒の学習到達度に合わせた補習の機会を全区立中学校で設けます

○ 短期集中型講座で、生徒の基礎的・基本的な学力のさらなる向上・学習習慣の定着につなげます

○区では、平成２６年度より「あらかわ寺子屋事業」を開始し、各学校において、始業前または放課後等の学習支援を継続的に行っており、基礎的・基本的な学力の定着を図ってきました。

○しかしながら、中学校に進学し、急激な学習環境の変化から、学習にとまどいが生じたり、学習意欲が低下することがあります。

↓

夏季休業期間を利用し、民間のノウハウを充分に活用した１０日間の補習を、令和元年度のモデル校での実施を踏まえて、全区立中学校で行います。

○区立中学１年生を対象に、英語、数学（算数）の２教科を一人ひとりの学習到達度に合わせ、重点的に学びます。

○学習成果を生徒・学校・保護者で共有し、２学期以降の学習指導にも活用していきます。

【問合せ先】　教育委員会事務局　指導室長　瀬下　清　内線３３８０

事業名　障がい者の地域生活を支えます！基幹相談支援センターの開設

予算額　　２，５７８万円

【ＰＲポイント】

○ 障がい者のお困りごとに、公民協働で荒川区の強みである地域コミュニティの力を活かしながら応える、相談支援の拠点を開設

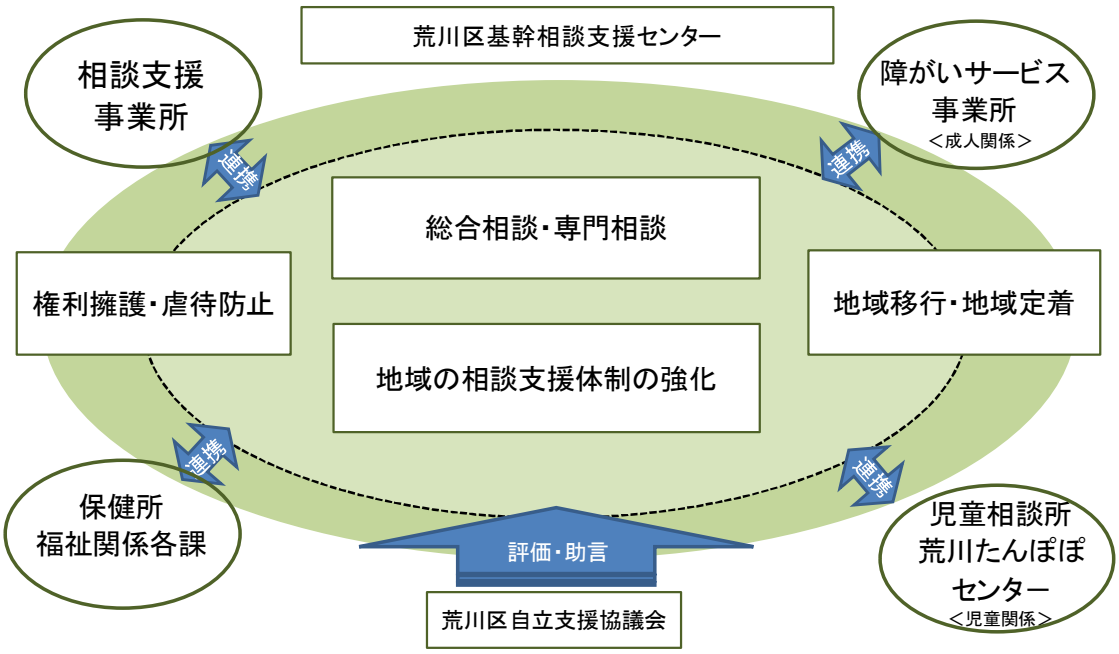
○ 荒川たんぽぽセンターに併設し、発達支援の必要な子どもやその保護者へのより細やかで包括的な支援を目指します

○ 荒川区には１万人を超える障がい者が、障害福祉サービス等を利用して暮らしていますが、保護者や障がい者ご自身の高齢化・障がいの重複など、暮らし続けるために多くの課題を抱えており、「総合相談・専門相談」を通じて、お困りごとの解決を目指します。

○ 社会的入院の解消や区内で生活を望む施設入所者への支援など、障がい者が地域で暮らせるよう、「地域移行・地域定着」に取り組んでいきます。

○ 障がい者やその家族が安心して過ごせるよう、「権利擁護・虐待防止」の取組を、個人や施設等を対象に細やかに行っていきます。

○ 荒川区自立支援協議会の活動で培った公民協働の土壌を活かし、誰もが幸せを実感できる地域社会を目指して、「地域の相談支援体制の強化」に取り組んでいきます。



【問合せ先】　福祉部　障害者福祉課長　本木　理恵子　内線　２６８０

事業名　水害対策の充実・強化

予算額　５億４，２０９万円

【ＰＲポイント】

○ 大規模水害に備え、避難勧告や各種情報の区民への伝達を迅速かつ的確に行うためのシステムを新規導入します

○ 水害対応の非常用発電機の本庁舎への新設、水防活動体制の充実、避難所等を運営する人材の育成を行います

近年大規模化している水害に全庁体制で対応していくため、情報伝達体制や電力確保手段の多重化、水防活動体制や避難場所運営体制の強化等により、水害への対応体制を充実・強化します。

１　避難勧告等の区民への伝達手段の充実・強化

災害情報の収集・管理・伝達を迅速かつ効率的に実施可能なシステムを導入し、水害時等に避難勧告等の情報をホームページやＳＮＳ、エリアメール等の各種媒体へ一斉配信できる仕組みを構築します。また、防災行政無線の発信内容を音声や文字情報で受け取ることができる防災ラジオの購入助成事業の実施や区ホームページのリニューアルに合わせた防災情報ページの充実等により、区民が災害関連情報を的確に取得できる環境を充実・強化します。

２　水害に対応した非常用発電機の本庁舎への新設、電力確保手段の多重化

水害時にも本庁舎で７２時間の稼働が可能な非常用発電機を新たに整備するとともに、蓄電池の導入等により電力確保手段の多重化を図ることで、災害時における停電対策の一層の充実・強化を図ります。

３　水防活動体制の充実・強化

浸水の早期解消のための排水ポンプの拡充、土のうステーションの区内各所への設置等により、水防活動体制のさらなる充実・強化を図ります。

４　避難所・避難場所エキスパートの養成、職員研修の充実・強化

避難所や避難場所の運営に関するエキスパートを育成するための町会向け講座の実施、避難所・避難場所での対応能力・判断能力を養成するための職員向け研修の実施等により、災害への対応体制のさらなる強化を図ります。

【問合せ先】　区民生活部　防災課長　森田　修康　内線４９２

事業名　交通事故ゼロを目指した取組＜新規＞

予算額　６２４万円

【ＰＲポイント】

○「自転車」の事故削減
～自転車保険への加入を促進し、安全利用を推進～

○「子ども」の事故削減
～楽しく学べる自転車講習会　目指せ自転車マスター！～

○「高齢者」の事故削減
～運転免許証の返納促進や運転支援装置の普及を支援～

荒川区は、交通事故の件数が２３区最少（令和元年実績）である一方、自転車・子ども・高齢者の事故割合が高いことが課題となっています。これらの事故を削減するため、以下の事業を多面的に展開し、交通事故ゼロを目指していきます。

①自転車

・自転車の保険加入と点検整備が同時にできるＴＳマークの取得を支援する制度を導入。これに合わせ、区内の自転車整備事業者と連携し、事故防止の啓発活動を実施
・警察署と連携し区内全ての保育園、幼稚園で交通安全講話を実施
・事故が多い生活道路を重点対策路線に指定し、路面標示等対策を実施

②子ども

・自転車講習会をリニューアルし、受講回数に応じて初級・中級・上級・マスターとランクアップする仕組みを設けることで、段階的な学習を促進し、子どものうちから交通ルールをしっかりと身につけさせる
・マスター到達者には、“金のあら坊ピンバッジ”や表彰状を進呈
・さらに親世代への注意喚起にも繋げ、全世代の事故削減を目指す

③高齢者

・運転免許証の自主返納や運転経歴証明書の取得を支援する制度を導入
・都が実施する「安全運転支援装置補助制度」の手続方法について、区民が利用しやすいよう、また区内自動車整備事業者が参入しやすいよう、区報やホームページ、ポスター等で積極的な制度の周知を図る。これに合わせ、自動車整備事業者と連携し、事故防止の啓発活動を実施

【問合せ先】　区民生活部　生活安全課長　菊池　秀幸　内線４９３

事業名　わくわくがいっぱい！荒川遊園リニューアル

予算額 １１億５，１２４万円

【ＰＲポイント】

○ 大型遊具を一新、新規アトラクションも導入

○ 授乳室やオムツ替えスペースを増設、室内遊び場を新設

○ 令和３年夏オープン予定

都内唯一の公営遊園地であり、親子連れの方々から人気の荒川遊園を、子どもにとっても大人にとってもさらに利用しやすく魅力的な施設へとリニューアルします。

４０ｍの観覧車や新規アトラクションを導入！

観覧車が４０ｍへと大型化、エアコン付きゴンドラを採用／楽しい放水型の新規アトラクションを導入／イルカ・パンダ・ティラノサウルスがいるメリーゴーランド／豆汽車・スカイサイクルも更新

子ども連れの方々にさらに使いやすく！

授乳室を５つ、オムツ替えスペースを８つ、ベビーカー置き場を３か所、トイレを１７基増設！

暑い日でも寒い日でも、雨の日でも楽しめる！

・子どもたちが体を動かしたり、おもちゃで遊べる全天候型室内遊び場を新設
・日差しや雨を防げる屋外テント付きのトランポリン状エア遊具を導入
・屋内休憩施設を拡充

【問合せ先】　子育て支援部　荒川遊園課長　山下　英男　内線４６９

事業名　宮前公園の整備

予算額　　１３億３５１万円

【ＰＲポイント】

○ 新図書館と一体化した遊びの空間を演出

○ バラを中心としたガーデンエリアとスーパー堤防化により整備された水辺テラスでの散策が楽しめる

○ 防災拠点としても機能する大きな芝生広場

○ 基本理念

【文化創造】　：　知と文化の拠点となる公園づくり
【子育て教育】：　子育て世代にやさしい公園づくり
【生涯健康】　：　区民の健康増進に寄与する公園づくり
【安全安心】　：　防災拠点として機能する公園づくり

＜４つの基本理念のもと、各エリア毎のテーマに沿った内容に整備＞

【文化創造エリア】

新尾久図書館の建設
＜緑に囲まれた公園の中の図書館＞

【ガーデンエリア】

園内各所にガーデンエリアを整備
＜ガーデニングの専門家の意見を取り入れたガーデン＞
第一期　ローズガーデン
第二期　メドーガーデン
　　ローズマニアガーデン

【多目的広場エリア】

芝生広場(約3,000㎡)整備
・日常は多目的広場として開放
・災害時は防災拠点として利用
・防火水槽、防災用トイレの整備

【子育てエリア】

公園の中の保育園
＜のびのびと遊べる空間の確保＞

【親水エリア】

・公園から水辺テラスへの散策
・スーパー堤防化により水害等に対する安全性を確保

【スポーツエリア】

・テニスコート(砂入り人工芝 ３面)
・シェルター(日除け、休憩用)

【子ども広場エリア】

・児童用、幼児用の複合遊具設置
・スイング遊具、砂場設置（幼児用）
・水飲み、ベンチ設置
・全面ゴムチップ舗装

【問合せ先】　防災都市づくり部　道路公園課長　大木　浩　内線２７３０

事業名　新尾久図書館の整備

予算額　８億３，３５３万円

【ＰＲポイント】

○ 令和２年１２月、オープン予定！「読書を愛するまち・あらかわ」をさらに展開

○ 乳幼児を連れた方や障がいのある方、赤ちゃんから高齢者まで快適に安心して利用できる図書館へ！

【目的・内容】

尾久図書館は施設の老朽化に伴い、現在整備中の宮前公園内に移転し、緑あふれる公園との融合を目指した図書館に生まれ変わります。

○四季折々の花々を眺めながら読書のできる「テラス席」や館内からも公園北側のローズガーデンを一望できる「展望席」を設け、お気に入りの席で読書を楽しむことができます。

○散歩途中でもふらっと立ち寄っていただけるように出入口を２か所設け、館内を通り抜けることも可能です。

○公園利用者もゆっくり休憩いただける「飲食スペース」を設けます。

気軽に利用できる身近な図書館

・親子で読み聞かせや手遊びができるおはなしコーナーを設置
・座席数を約300席に倍増し、バラエティに富んだイスを配置
・赤ちゃんから高齢者まで快適に過ごすことができる空調（輻射式冷暖房）を導入

新たな尾久図書館整備イメージ

交流の拠点

・自然観察会等、公園と連携したイベントができる多目的室を設置
・グループ学習室を新設
・ボランティア活動の拠点として整備

バリアフリー

・多目的トイレを充実
・障がい者専用駐車場を新設
・対面音訳室を新設

【問合せ先】　地域文化スポーツ部　地域図書館課長　成瀬　慶亮　内線４３９

事業名　ふれあい館の整備

予算額 １０億６，２２６万円

【ＰＲポイント】

○ 荒川区では、乳幼児から高齢者まで幅広い世代が活動、交流できる地域コミュニティ施設「ふれあい館」を整備しています。災害時には地域の高齢者や配慮を要する方々の二次避難所として機能します。

○ 令和４年度に東尾久及び日暮里地域に新たに２館を開設するため、令和２年度から建設工事に着手します。

区では、平成１６年度から、区民の新たなニーズに対応すると共に、災害時には二次避難所となるふれあい館の整備を進めています。

○　ふれあい館には、乳幼児用スペース、音楽室、多目的室等があり、文化活動からスポーツ活動まで、幅広い活動の場を提供します。

○　ふれあい館の運営は、これまで同様、指定管理者制度による民間活力を導入し、乳幼児から高齢者まであらゆる世代を対象にした事業を展開していきます。

○　新たに以下の２館が開設することで、ふれあい館は合計１５館となり、身近なふれあい館での活動、交流がさらに広がります。

※　令和４年度開設予定（工事期間：令和２年度～３年度）
　・東尾久本町通りふれあい館（東尾久２－３７）
　・ひぐらしふれあい館（東日暮里６－２８）

東尾久本町通りふれあい館イメージ図

ひぐらしふれあい館イメージ図

【問合せ先】　区民生活部　区民施設課長　遠藤　伸記　内線２５３０

事業名　オリンピック・パラリンピック関連事業

予算額　　７，２０３万円

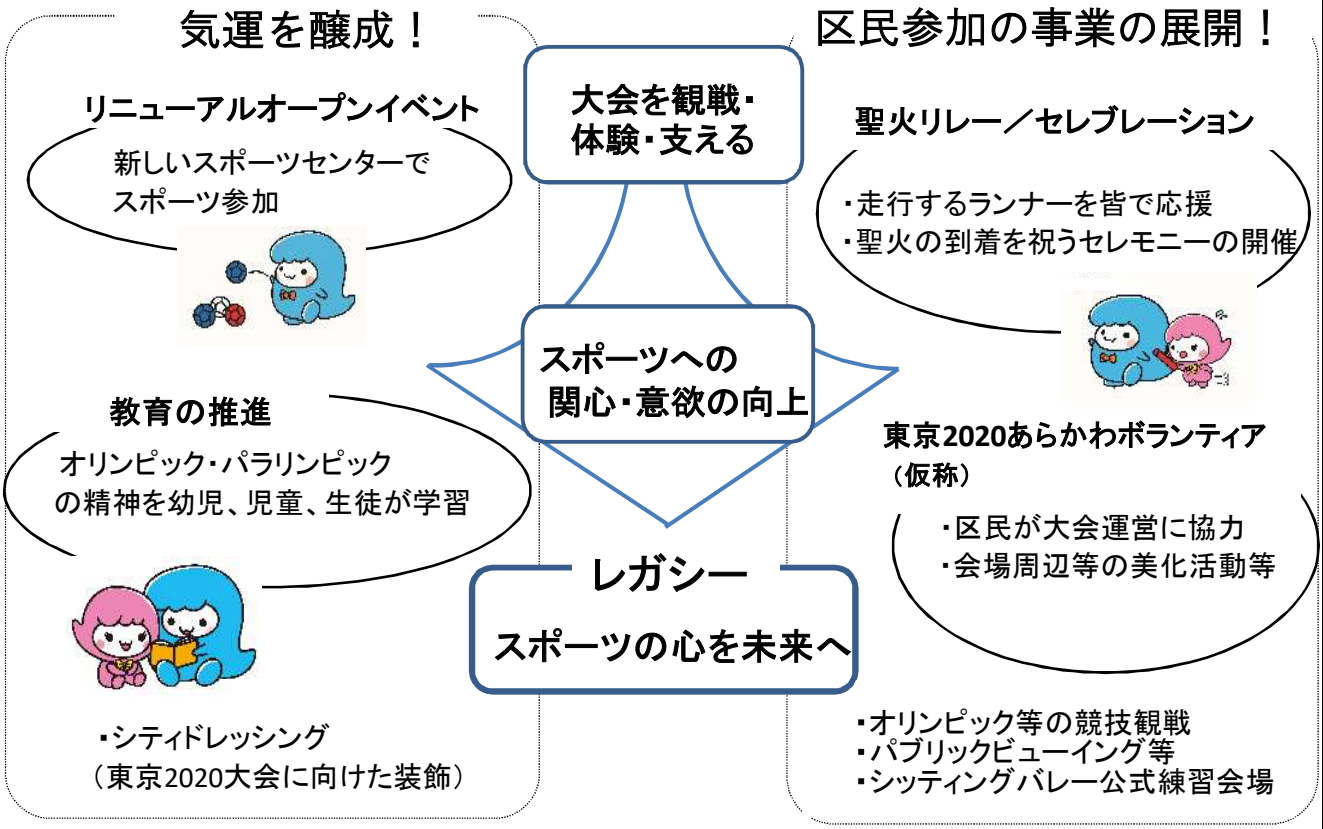
【ＰＲポイント】

○ 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運を醸成

○ 東京２０２０大会を区民が観戦したり、体験したり、支える事業を展開

【目的・内容】

東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、荒川総合スポーツセンターでのイベントをはじめ、様々な事業を展開することで気運を高めるとともに、多くの区民がこの大会を観戦、体験、支えることで関わりを持ち、スポーツへの関心や意欲を高め、記憶に残るレガシーとして未来へ引き継いでいきます。



【問合せ先】　地域文化スポーツ部　スポーツ振興課長　泉谷 清文　内線３３７０

事業名　日暮里地域活性化施設の開設

予算額　８億７，３９８万円

【ＰＲポイント】

○ 全国有数の繊維街がある日暮里に新たなシンボルが誕生！
ファッション関連の創業支援施設・工房スペースで
「ファッションの街　日暮里」を盛り上げます

○ コンシェルジュがご案内。外国人を含めた日暮里を訪れる
多くの方が「おもてなしスペース」に立ち寄り、地域の
方々が集いたくなる施設を目指します

令和２年１２月、日暮里繊維街に「日暮里地域活性化施設」を開設します。
ファッション関連のインキュベーション施設、創業支援カフェで起業を支援するほか、地域の拠点としての区民事務所やおもてなしスペース等を備えたコミュニティの場として日暮里地域の活性化に寄与していきます。

５階　・ファッション関連の創業支援施設
オフィス（個室）４室、シェア型オフィス（５席）１室
ＩＭ（注１）が経営相談から販路開拓まで入居者を支援

３階
・創業支援カフェ
新ビジネス創出や
起業を目指す人が
集える場所

・多目的スペース

２階
・創作コーナー
工房（５階）と
併せて繊維街の
素材を活かした
ワークショップ、
創作機器貸出
などを実施

・総合受付

１階
・おもてなしスペース
コンシェルジュが
周辺の観光等を案内

・日暮里区民事務所

（注１）ＩＭ＝インキュベーションマネージャー
創業・経営等に関する指導者

【問合せ先】　産業経済部　産業振興課長　秦野　泰嘉　内線４４５

事業名　クラウドファンディングで新ビジネスを支援＜新規＞

予算額　　１５０万円

【ＰＲポイント】

○ 新製品や新サービスを開発するため、クラウドファンディングを活用して資金調達する中小企業を支援します。

インターネット環境の発達と体験に価値を見出す「コト消費」の増加を背景に、Ｗｅｂ上で多くの人から、新製品・新サービス開発の資金を募るクラウドファンディングが注目を集めています。

こうしたＷｅｂ上での資金調達を通して、多様な人たちとつながり、その中から新たな顧客や熱烈なファンを獲得していくことが、新ビジネスの成功の重要なファクターとなっています。

○ 区内中小企業が、クラウドファンディングを活用した資金調達の際に、運営事業者に支払う手数料の一部を補助します。
（補助率　最大２／３ 上限３０万円）

【問合せ先】　産業経済部　経営支援課長　小堀　純　内線４５５

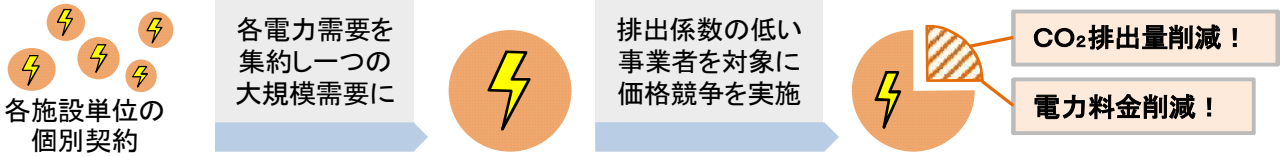
事業名　環境負荷の少ない電力の調達を拡大

【ＰＲポイント】

○ 区施設で使用する電力を特定規模電気事業者(新電力)から一括で調達し、二酸化炭素排出量が少なく環境負荷の低い電力使用を推進するとともに、コストの削減を図ります

○ 直営施設の低圧電力について、秩父市等が出資する同市の地域新電力事業者からクリーンな電力を調達します

○区施設で使用する電力を一定の条件を満たす特定規模電気事業者（新電力）から一括で調達することで、電力使用に伴う二酸化炭素排出量を削減するとともに、スケールメリットによるコストの削減を実現します。
２年度からは、直営施設に加え、指定管理施設へもこの取り組みを拡大し、１００施設において電力の調達を実施します。



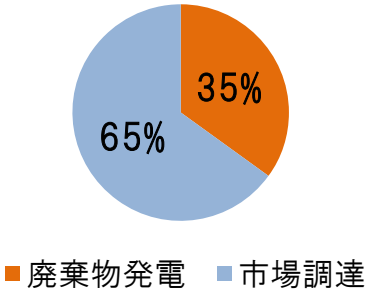
○直営施設の低圧電力について、秩父市等が出資する地域新電力事業者である秩父新電力株式会社から調達をすることで、より排出係数の低く低廉な電力を受給するとともに、電力の繋がりを契機とした都市間交流の促進も図ります。

二酸化炭素排出係数（単位：kg-CO_2/kWh）

※電気の供給１kwhあたりの二酸化炭素排出量を示す数値

○契約予定の新電力事業者　0.360（見込み）　⇒　契約予定事業者の電源構成

○全電力事業者平均　0.471（平成29年度実績）



低圧電力の削減効果（試算）

※旧一般電気事業者から電力を調達した場合との比較

二酸化炭素排出量　▲116 t-CO2

電力料金　▲8,738 千円

【問合せ先】　環境清掃部　環境課長　木下　兼吾　内線　４８１